

北播磨総合医療センター改革プラン 平成31年度（令和元年度）実施状況の点検・評価報告書

令和2年7月

北播磨総合医療センター改革プラン評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、北播磨総合医療センター改革プラン（以下「改革プラン」という。）の平成31年度（令和元年度）実施状況の点検・評価を実施しましたので、次のとおり報告いたします。

1 評価方法

改革プランの各項目の実施状況について、北播磨総合医療センターから提出された改革プランの実施状況及び自己評価を検証し、評価委員会の総意を取りまとめる形で、点検・評価とした。

2 評価委員会

委員長	明石 純	関西学院大学大学院経営戦略科教授	学識経験者
副委員長	堀井弘幸	三木市医師会長	医療関係者
副委員長	西山敬吾	小野市加東市医師会長	医療関係者
委員	小田美紀子	コウダイケアサービス株式会社 執行役員 （元兵庫県看護協会専務理事）	医療関係者
委員	阿南 徹	済生会兵庫県病院事務部参事 （前同病院事務長：三木市在住）	市民代表
委員	土井嘉彦	公認会計士 （元企業団監査委員：小野市在住）	市民代表

3 点検・評価

(1)総評

改革プラン実施状況の点検・評価について、評価基準を(2)のとおり定め、評価項目について、委員会で図った結果、(3)及び(4)のとおりとなった。

新型コロナウイルス感染の発生により、3月に診療等を2週間休止した影響もあり、計画に達していないところもあるが、地域の急性期医療を担い、医療機能・医療品質の向上に努めているところは大いに評価できる。

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度の経営状況も大変厳

しいと思われるが、引き続き、計画的なプランの実行により経営の効率化を図るとともに、地域の基幹病院として高度な医療供給体制の充実に努められたい。

(2)評価基準

評 価	評価の基準
S	特によくできた（全国的に模範とされるような成果）
A	よくできた（プランの数値を大幅に上回っている）
B	概ねできた（プランの数値をほぼ達成している）
C	あまりできていない・できていない（プランの数値に未達）

(3)評価項目

	S	A	B	C
1 医療機能の再編による医療供給体制の充実	0	1	2	0
2 地域包括ケアシステムの構築に係る地域医療連携の推進	0	0	3	0
3 医療従事者の育成と確保	0	1	5	0
4 経営効率化	0	2	2	3
5 経営の安定性	0	0	2	2

(4)各項目の評価

< 1 医療機能の再編による医療供給体制の充実 >

病床機能、病棟稼働の計画について、当初は緩和ケア病棟のフル稼働を計画していたが、計画を変更してHCUをフル稼働しておりBとする。

医療機能・医療品質の確保について、手術件数、血管造影件数及び内視鏡件数は前年度実績及び計画を下回っているが、救急患者数及び救急搬送件数は前年度実績及び計画を上回っておりAとする。診療等休止の影響で計画に達していない項目があるものの、急性期医療を担う地域の基幹病院としての役割は充分果たしている。

先端医療の推進について、概ね計画を達成しておりBとする。

< 2 地域包括ケアシステムの構築に係る地域医療連携の推進 >

地域医療連携の推進について、紹介率及び逆紹介率は前年度実績及び計画を上回っておりBとする。地域医療支援病院として地域の医療機関との連携強化に努めている。

入退院支援サポートの推進について、計画を上回っておりBとする。

かかりつけ医制度の推進について、前年度実績及び計画を下回ってい

るが、公開講座等の開催や広報紙等でのPR活動に積極的に取り組んでおりBとする。

< 3 医療従事者の育成と確保 >

実習生の受入について、概ね計画を達成しておりBとする。

医師の確保について、計画を達成しておりAとする。常勤医師を大幅に増員し、専攻医及び研修医の確保も順調である。

医療技術員の確保について、概ね計画を達成しておりBとする。

看護師の確保について、概ね計画を達成しておりBとする。

事務職員の確保について、概ね計画を達成しておりBとする。

プロパー管理事務職員の確保について、計画を達成しておりBとする。

< 4 経営効率化 >

収支改善について、前年度実績及び計画を下回っておりCとする。

患者数の確保について、1日平均入院患者数は前年度実績及び計画を下回っているが、1日平均外来患者数は前年度実績及び計画を上回っておりBとする。計画は下回ったものの、病床利用率は公立病院としては高い数値である。

診療単価の向上について、入院単価、外来単価は前年度実績及び計画を上回っておりAとする。平均在院日数の短縮等により診療単価の引き上げが図られている。

職員給与費について、概ね計画を達成しておりBとする。

材料費について、対診療収入比率は前年度実績より上昇して計画を下回っておりCとする。対診療収入比率は年々上昇しており、引き続き費用の削減に努められたい。

委託料について、前年度実績より増加して計画を下回っておりCとする。

経費について、前年度実績より減少して計画を上回っておりAとする。

< 5 経営の安定性 >

組織運営について、既に計画を達成しておりBとする。

請求業務の改善について、概ね計画を達成しておりBとする。

滞納整理について、現年度未収（滞納）額は前年度実績より増加して計画を下回っておりCとする。今後、新たな患者未収金の発生防止に努められたい。

内部留保資金について、前年度実績及び計画を下回っておりCとする。